

新しい農連市場が完成



▲1階の店舗。防災性が向上した建物内で安全安心に商売ができるようになりました
▶2階の仲卸業者。路上で荷捌きすることがなくなり、周辺の交通環境も改善しました

“衣食住遊”が融合するマチへ
長く市民の台所として親しまれてきた農連市場。一方、施設の老朽化に加え、都市基盤の未整備に伴う防災上の問題などが以前から指摘されてきました。
1984年に農連市場の再開発の計画がスタートしてから今年で33年。ついに新しい市場棟「のうれんプラザ」が10月に完成し、営業を開始しました。

農連市場は1953年、琉球農連(現J Aおきなわ)が米国民政府管理の土地約3300㎡を借りて開設。59年の農家への市場開放後は取引量も増加し、売り手と買い手が価格や購入量を直接交渉する「相対売り」を中心に繁栄を極めました。しかし、



1984年の整備構想案策定から30年を経て、2014年、那覇市農連市場地区防災街区整備事業組合が設立され、本格的に農連市場の再開発が始まりました。再開発の面積は約3.1ヘクタール。現在、ガープ川の北側に新市場、通信制高等学校、権利者住宅を建設しました。今後、ガープ川の南側に保育所を併設した70戸の市営住宅、19階建て108戸の分譲住宅棟、約300台収容可能な

再開発事業に関する市街地整備課
☎951・3248
市場棟の営業に関するのうれんプラザ運営室
☎834・7818

市郊外への大型商業施設の進出に加え、市場の老朽化なども相まって、かつての賑わいを失いつつありました。

な駐車場棟を整備し、まちなか居住を推進していきます。事業全体の完了は2020年度を予定しています。

新市場で地域活性

新市場は1階に生鮮野菜などの小売、2階に飲食や仲卸業者、3階に来客用駐車場が併置されています。安全安心な新しい建物で、市はさらなる商業の活性化とマチグワー文化の継承を図っていきます。

再開発へ始動

1984年の整備構想案策定から30年を経て、2014年、那覇市農連市場地区防災街区整備事業組合が設立され、本格的に農連市場の再開発が始まりました。

“衣食住遊”が融合するマチへ

主な紙面

- 「衣食住遊」が融合するマチへ……………1
- 入園・入所案内(保育所など)／児童虐待防止推進月間……………2
- アルコール依存症／資源化物の無断持ち去り 罰則金5万円……………3
- 新文化芸術発信拠点施設(新市民会館)／同施設建設と久茂地牧志のまちづくり／沖縄の演劇が熱い!……………5
- 情報バック／博物館トピックス……………9

市長室

市民の台所、輝き再び

はいたい! 幹子やいびん

市民の皆様、60年以上の歴史を重ねてきた農連市場が、新しく「のうれんプラザ」として生まれ変わりました。

これまでの農連市場は、昔ながらの相対売りや、市場の人たちとのふれあいを感じられる古き良きマチグワー文化の象徴であり、観光客にも人気のスポットでした。また、昭和の佇まいの残る風景も魅力のひとつだったのではないのでしょうか。

私もずいぶん足を運びましたが、古くなった建物を見るたびに、台風や火事の心配が頭をよぎり、市場で働く方々や訪れる方々の安全対策について、いつも気にかかっていました。しかし、市場に関わる皆さんが丸となって、災害に強く、「人との行き交い、マチグワー文化を継承するにぎわい豊かな街」を目指して再開発事業を進め、このたび「のうれんプラザ」がオープンしたことを、大変嬉しく思っています。

店舗の皆さんも、これまで育んできたマチグワー文化をしっかりと継承しながら、気持ちも新たに頑張るぞという気概にあふれています。

まだ整備中の区画もありますが、「のうれんプラザ」を中心に多くの交流が生まれ、ふれあいが深まり、市民の台所としての輝きが増すことを、心から楽しみにしています。



那覇市長
城間幹子